

安全データシート

作成/改訂 2020年11月12日

1. 製品及び会社情報

製品の名称	パワーゾールエコ R201
整理番号	R20
会社	上野化学工業株式会社
住所	大阪府枚方市招提田近3-3-2
担当部門	化成品部
電話番号	072-856-2281 FAX 番号 072-856-2272
緊急連絡先	072-856-2281
製品の種類	洗浄液

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性（吸入：蒸気）	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	区分1
	発がん性	区分2
環境に対する有害性	生殖毒性	区分1B
	特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分2（中枢神経、呼吸器、 肝臓、腎臓） 区分3（気道刺激性、 麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分1（中枢神経、呼吸器、 肝臓） 区分2（皮膚、神経系、肺）
	誤えん有害性	区分1

GHSラベル要素



絵表示又はシンボル

注意喚起語 危険

危険有害性情報 ・引火性液体及び蒸気

- ・吸入すると有害
- ・皮膚刺激
- ・重篤な眼の損傷
- ・発がんのおそれの疑い
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・臓器の障害のおそれ（中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓）
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気又はめまいのおそれ
- ・長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害
(中枢神経、呼吸器、肝臓)
- ・長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ
(神経系、肺)
- ・飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期的影響により水生生物に毒性

取扱注意

[注意事項]

- ・安全データシート（SDS）を参照し、指定された取扱い方法を守ることを。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・熱／火花／裸火／高温の着火源から遠ざけること。－禁煙
- ・保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・取扱い時に飲食または喫煙をしないこと。
- ・ミスト／蒸気／スプレー等の吸入をしないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・換気の良い涼しい場所に施錠して保管すること。
- ・取扱い後は、手をよく洗うこと。
- ・本来の用途以外には使用しないで下さい。

[応急処置]

- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗い、コンタクトレンズは可能なら外して、洗浄を続ける。
医師の診断／手当てを受けること。
- ・皮膚に触れた場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断／手当てを受けること。
- ・気分が悪い場合、飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡すること。
- ・漏出物を回収すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分	ジエチレングリコールモノブチルエーテル	グリコールエーテル系溶剤	芳香族炭化水素 ソルベントナフサ
CAS No.	112-34-5	非公開	64742-95-6
含有量	5～15%	35～45%	45～55%
化学式又は構造式	C8H18O3	非公開	混合物
官報公示整理番号	2-422	非公開	9-1691
化学物質管理促進法	非該当	非該当	第一種指定化学物質含有

4. 応急処置

- ・ 専門家による治療までの救急処置は、被災者の障害や暴露の状況で異なるが、被災してからの救急処置、治療が行われるまでの時間がその後の結果に重大な影響を及ぼすので、可能な限り迅速に行う。

吸入した場合

- ・ 患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にする。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

- ・ 汚染された衣類、靴等は速やかに脱ぎ、触れた部位を多量の水及び石鹸で洗い流すもし皮膚に炎症を生じたときは医師の手当てを受ける。

目に入った場合

- ・ 直ちに清浄な水で15分以上洗眼し、眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

- ・ 無理に吐かせてはいけない。患者に意識のある場合には、口内を水で洗浄し、温水を飲ませる。直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・ 泡、粉末、炭酸ガス、ハロゲン化物、砂。

消火方法

- ・ 消火剤としては、泡、粉末、炭酸ガス、ハロゲン化物、砂が有効であるが、炎を消さず周辺の物件を水で冷却し、延焼を防ぐ方が良い場合もある。
- ・ 火災時、通風の悪い場所には、空気呼吸器等呼吸用保護具を着用して消火作業を行う。
- ・ 周辺火災の場合は、容器を安全な場所へ移動する。移動不可能の場合は、容器に注水して冷却する。

6. 漏出時の措置

- ・ 屋内で漏出した場合は、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 高濃度の蒸気が存在する場合には、必ず有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器等呼吸用保護具並びに手、目及び皮膚の保護具を着用して作業を行う。

少量の場合

- ・下水や排水溝へ流出、また地下へ浸透することのないように、活性炭等により吸着又は乾燥した砂等により吸収させて、密閉できる容器に保管する。

多量の場合

- ・漏出した液が下水や排水溝へ流出及び地下へ浸透することのないようにする。
- ・ポンプ等によりくみ取り密栓できる金属容器へ移替え、残ったものは、活性炭等による吸着、ぼろ布等による拭き取りを行い、密閉できる容器に保管する。
- ・吸着又は吸収したものは、特別管理産業廃棄物として適切に処分する。
(「13 廃棄上の注意」の項 参照)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・火気厳禁。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。蒸気は空気と爆発性の混合ガスを作り、引火爆発の危険性があるため、使用に際しては、蒸気が滞留しないように換気を充分に行い、静電気、衝撃火花などによる着火源の生じないように注意する。
- ・取扱いの際は、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
- ・取扱い場所には全体換気装置又は局所排気装置を設置する。
蒸気は空気より重く低いところに滞留しやすいので、吸引式排気装置を床面に近いところに設置する。
容器を密閉し、蒸気の飛散をできるだけ押さえる。
漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
使用済みの空容器は一定の場所を定めて集積する。

保管

技術的対策	: 換気の良い冷暗所に密栓して保管する。
保管条件	: 直射日光を避け、高温物を近づけない。
混触禁止物質	: 酸化性物質、有機過酸化物
安全な容器包装材料	: 消防法で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに手洗い及び洗眼のための設備を設ける。

管理濃度

: 設定なし

許容濃度(日本産業衛生学会、ACGIH): 1.3.5-トリメチルベンゼン 25ppm (TWA)

1.2.4-トリメチルベンゼン 25ppm (TWA)

保護具

呼吸器の保護具	: 防毒マスク (有機ガス用)、送気マスク
手の保護具	: 保護手袋
目の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護服 (長袖作業衣)、保護長靴、保護前掛け等

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 無色透明な揮発性液体
臭い	: 石油溶剤臭
沸点	: 約150～230℃
引火点 (タグ密閉式)	: 40℃以上
爆発範囲	: データなし
比重 (25℃)	: 0.87～0.90
溶解度	: 水に難溶、多くの有機溶剤とは自由に混合
自然発火温度	: データなし
粘度 (25℃)	: 1～2 cP

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の手扱い条件においては安定である。
反応性	: 自己反応性はなし
避けるべき条件	: 強酸化剤との接触は避ける。
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

<ジエチレングリコールモノブチルエーテルの情報>

急性毒性：経口：複数のラット LD50 値(6560,5660,7300,9600,6530,5080)より区分に該当しない。

：経皮：ラット LD50>2000mg/kg 及びウサギ LD50(2764,4120mg/kg)

皮膚腐食性/刺激性：ウサギ：「刺激性なし」あるいは「軽度の刺激性」

ヒトのパッチテストで一部被験者に紅斑を認めたのみ。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：ウサギ眼：中程度の刺激性と組織損傷を示したが、14日以内に回復。別の試験で強い刺激性が報告されている。

特定標的臓器毒性 (単回暴露)：ウサギに経口投与により約 2000mg/kg で死亡が発生し、1060mg/kg で腹臥位、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓障害。区分3 (麻酔作用)

特定標的臓器毒性 (反復暴露)：ラットの5週間吸入毒性試験：117mg/m³ 肝臓の相対重量増加、肝細胞脂肪変性がみられる。ラットの2週間吸入毒性試験で100mg/m³ で血管周囲及び気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管支化、肺重量増加がみられている。

区分1 (呼吸器、肝臓)

<グリコールエーテル系溶剤の情報>

急性毒性 (経口) LD50=800mg/kg

急性毒性 (吸入) LC50=>1914ppm

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：ウサギの結膜、虹彩および角膜のダメージより‘大変強い刺激’が認められている。

皮膚感作性：マウスの実験で極軽度から無感作性 (区分に該当しない)

生殖細胞：染色体異常試験陰性。

生殖毒性：生殖発生毒性の無影響量は親動物および児動物とも 100mg/kg/day

<芳香族炭化水素の情報>

急性毒性（経口）LD50 ATEmix:5000mg/kg（区分に該当しない）
急性毒性（経皮）LD50 ATEmix:3000mg/kg（区分に該当しない）
急性毒性（吸入：ミスト）LC50 ATEmix:18mg/L（区分に該当しない）
皮膚腐食性／刺激性：Solvent naphtha(petroleum)light arom：区分2、
1.3.5-トリメチルベンゼン：区分2、キシレン：区分2（区分2）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：1.3.5-トリメチルベンゼン：区分2B、キシレン：区分2、
クメン：区分2B、ナフタレン：区分2B（区分2B）
呼吸器感受性：データなし（分類できない）
皮膚感受性：ナフタレン：区分1（分類できない）
生殖細胞変異原性：Solvent naphtha(petroleum)light arom：in vivo 試験：陰性、in vitro
試験：陰性
1.2.4-トリメチルベンゼン：in vivo 試験：陰性（高用量でのみ陽性）、in vitro 試験：データなし
1.2.3-トリメチルベンゼン：in vivo 試験：データなし、in vitro 試験：陰性
キシレン：in vivo 試験：陰性、in vitro 試験：陰性
クメン：in vivo 試験：陰性、in vitro 試験：陰性
ナフタレン：in vivo 試験：陰性、in vitro 試験：陰性（区分に該当しない）
発がん性：クメン：区分2、ナフタレン：区分2（区分2）
生殖毒性：キシレン：区分1B（区分1B）
授乳：データなし（分類できない）
特定標的臓器毒性（単回暴露）：
Solvent naphtha(petroleum)light arom：区分3（麻酔作用）。
トリメチルベンゼン：区分3（気道刺激性、麻酔作用）
キシレン：区分1（中枢神経、呼吸器、肝臓、腎臓）、区分3（麻酔作用）
クメン：区分1（中枢神経、肝臓、腎臓）、区分3（気道刺激性、麻酔作用）
ナフタレン：区分1（血液系、眼、呼吸器）
（区分2（中枢神経、呼吸器、肝臓、腎臓）、区分3（気道刺激性、麻酔作用））
特定臓器毒性（反復暴露）：
1.2.4-トリメチルベンゼン：区分2（神経系、肺）
1.3.5-トリメチルベンゼン：区分1（中枢神経、呼吸器）
キシレン：区分1（神経系、呼吸器）
ナフタレン：区分1（血液系、眼、呼吸器）
（区分1（中枢神経、呼吸器）、区分2（神経系、肺））
誤えん有害性：炭化水素液体であり、動粘性率は<20.5mm²/s(40℃)である。（区分1）

12. 環境影響情報

<ジエチレングリコールモノブチルエーテルの情報>

魚毒性：魚類急性毒性（ヒメダカ/96時間）LC50>100mg/L

ミジンコ急性遊泳阻害（48時間）EC50>1000mg/L

藻類成長阻害（セレンストラム、72時間）EC50>1000mg/L

生分解性物質である。生体蓄積性はなし。

COD：8,060mg/L（1%水溶液）

オゾン層への有害性：モントリオール議定書の付属書に列記されていない。

<グリコールエーテル系溶剤の情報>

魚類急性毒性：魚 LC50(96Hrs)>100mg/L

甲殻類急性遊泳阻害：ミジンコ EC50(48Hrs)>100mg/L

藻類成長阻害：藻 IC50(72Hrs)>100mg/L

オゾン層への有害性：モントリオール議定書の付属書に列記されていない。

<芳香族炭化水素の情報>

ここに示す情報は、本物質、成分又は／あるいは類似物質のデータに基づく。

生態毒性

水中生物に対して、有害であると予測される。

水中生物に対して、慢性的に有毒であると予測される。

急性毒性（甲殻類）：48hr EC50: 6.14mg/L [Daphnia magna]

残存性・分解性

生物分解：難分解性であると予測される。

加水分解：加水分解による変性は少ないと予測される。

光分解：光分解による変性は少ないと予測される。

大気中での酸化反応：揮発性の高い成分一速やかに空気中で分解することが予想される。

生体蓄積性：生体蓄積の可能性は低いと推定される。

土壌への移動性：揮発性の高い成分：非常に揮発性が高く、速やかに空気中に拡散する。

揮発性の低い成分：溶解度が低く、浮遊し、水中から陸地に移動することが予測される。

オゾン層への有害性：オゾン層への有害性は予想されない。

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関連法規・法令を遵守し、焼却により行うか、もしくは都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に危険性、有害性を十分告知した上で委託する。
汚染容器・包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

1.4. 輸送上の注意

注意事項	: 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。火気厳禁、高温多湿、直射日光を避ける。その他、消防法などの法令の定めるところに従う。
国内法規制	: 消防法：危険物 第4類 第2石油類（非水溶性液体） 危険等級Ⅲ
国連分類	: クラス3（引火性液体 P.G Ⅲ）
国連番号	: 1993

15. 適用法令

消防法	: 危険物 第4類 第2石油類 (非水溶性液体)
PRT法	: 第一種指定化学物質: 1,3,5-トリメチルベンゼン 4.3%、 1,2,4-トリメチルベンゼン 15%
労働安全衛生法	: 危険物 (引火性の物) : 施行令別表9、表示・通知対象物質 (第136号キシレン 2.5%未満、第138号クマリン 2.5%未満、 第224号の3ジエチレングリコールモノブチルエーテル 5-15%、 第302号ナフレン 0.5%未満、第404号トリメチルベンゼン 15.5-42.5%) : 有機則 第3種有機溶剤 がん原性指針: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
船舶安全法	: 引火性液体類

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。